

即席志望動機

・案1 (claude)

私は高校時代からAIとその応用について関心を持ち、日本工学院八王子専門学校のAIシステム科に進学しました。専門学校では「Swept-Sine法を用いた食品硬度測定アプリ」の研究開発に取り組み、農業施設学会で優秀賞を受賞するなど、一定の成果を上げることができました。今後、この研究成果を世の中に公開する際、どのように社会に影響を与えるかを考察することが重要課題の一つと考えています。

そこで、筑波大学知的情報・図書館学群の情報資源経営学類が、メディア利用の影響など、情報公開による社会への影響を研究対象としていることに強く惹かれました。私自身の研究と合致する点が多く、同学類での学びを通じて、技術と社会の関係性をより深く理解し、研究成果の社会実装において配慮すべき点を体得したいと考えています。

また、同学類が「知識、情報、人をつなぎ、広い視野で問題解決できる人材育成」を掲げている点にも共感しています。専門学校では、AIを中心に据えつつも、それを他分野と融合させる重要性を学びました。筑波大学ならば情報学の深い知見とあわせ、より広い視野から研究に取り組めると期待しています。

入学後は、研究発表の社会影響に関する知見を深めるとともに、大学院進学を見据え、マルチメディア研究室への所属を目指します。そこで専門的な技術を追求しつつ、知的情報・図書館学類で身に付けた視点を活かし、真に社会に役立つ研究開発を行いたいと考えています。

・案2 (chatGPT)

私は、東京都立科学技術高校に入学後、AIの具体的な仕組みやアルゴリズムとその応用方法について学びたいという強い意欲を持ち、日本工学院八王子専門学校のAIシステム科に進学しました。専門学校では、研究開発の過程でスマートフォンを利用した音響的手法を用いた食品品質の分類法に着手し、その成果を学会や国際会議で発表するなど、積極的に活動してきました。

筑波大学の知的情報・図書館学群に興味を持った理由は、私の研究成果を社会に公開する際に、技術の適切な利用方法やその社会的影響について深く学びたいと思ったからです。特に、鈴木佳苗教授の研究課題である「メディア利用の影響」には、私の研究成果を社会に発信する際に直面するであろう課題が響き合うと感じました。

また、筑波大学の教育方針が「知識、情報、人をつないで新たな知を創出し、広い視野をもって問題を解決できる人材を養成する」という点にも共感しました。私は専門学校で、単純な情報技術だけでなく、異なる分野との融合による研究を行ってきました。その経験から、筑波大学の学風が私の幅広い視野と研究テーマの創出に適していると考えました。

将来のキャリアとしては、知的情報・図書館学群で学んだ知識を活かし、大学院でマルチメディア研究室に所属し、先端技術と社会の架け橋となる研究を行いたいと考えています。私の専門学校での研究成果を更に発展させ、社会に貢献するために、知的情報・図書館学群での学びを積極的に活かしていきます。

・メモ(急いだので内容はかなり投げやりです)

・ **自身の学歴や専攻：過去にどのような学歴を持ち、どのような専攻をしてきたか**
東京都立科学技術高校に入学後、AIの具体的な仕組みやアルゴリズムとその応用方法について学習したいと考え、日本工学院八王子専門学校、AIシステム科に入学

・ **専攻や研究内容に対する興味・関心：志望学部や学科の専攻や研究内容に対して具体的に興味や関心があること**

現在私が研究開発している、スマートフォン単体で行うことのできる、音響的手法を用いた食品品質の分類法を、世の中に公開した際に、どの様に人々に影響を与えるのか（例えば、この手法によってよりよい品質のみが注目される様になり、帰って食品ロスを助長しないかなど）というような、研究成果を世の中に公開する際に、それによって社会に悪影響を起こさないためにはどの様にすれば良いのかという問題を解決したいと考えているが、それが情報資源経営専攻にて鈴木佳苗教授のメディア利用の影響という研究課題と合致していると考えた。

・ **過去の経験や活動：これまでの経験や活動を通じて培った能力や志向性を述べ、それが志望学部や学科でどのように活かされるかを説明する。**

在学中では”Swept-Sine法を用いた食品硬度測定アプリの試作”というテーマで研究を行い、2月に農業施設学会・若手研究の部にて優秀賞を受賞。

また本研究を6月に食品製造総合展Foomaにて展示予定であり、また国際会議IEEEにて英語論文を発表予定としている。

・ **筑波大学の特色やプログラムへの関心：筑波大学の知的情報・図書館学群における特色やプログラムについて、具体的にどのような点に関心があるかを示す。**

私は専門学校に入学してから、学科からは、単純な情報技術だけでなく、ミニ四駆や現実空間から収集したさまざまなデータを用いて、仮想空間上に現実と同じ環境を「双子」のように再現する方法、食品科学などといった、さまざまな分野とのAIの融合について学び、また私もそのような学祭的思考を持つことによって、より広い視野を持って研究テーマや問題を見出すことができる、まさにAIによって駆逐されない人材に昇華できると考えてきました。

これは学類長の”知識、情報、人をつないで新たな知を創出し、広い視野をもって問題を解決できる 人材を養成する”という教育方針と合致している様に思えます。

また、数は少ないですが、さまざまな図書館学を持つ大学の中でも、筑波大学は大学自身が情報工学に強い側面を持っており、今まで自分が情報学を中心に学習してきた面からも、親和性が高いと考えた。

（また筑波大学では自分の出身校の先輩や、研究の指導教員の出身である点も含まれる）

・将来のキャリアや目標：志望学部や学科を卒業した後の将来のキャリアや目標について述べ、そのためにどのように学びたいかを説明する。

知的情報・図書館学群では先述した通り、研究成果を世の中に公開する際に、それによって社会に悪影響を起こさないためにはどの様にすれば良いのかなどといった技術の取り扱い方について学び、その後大学院への進学を希望します。

大学院では知的情報・図書館学群とは別のマルチメディア研究室に所属することを目標にしており、そこで自らが専門学校で学んできた研究をさらに発展させるべく勉強するとともに、得られた研究を世間に公開する際に、知的情報・図書館学群で学んだことを活かしたいと考えています。